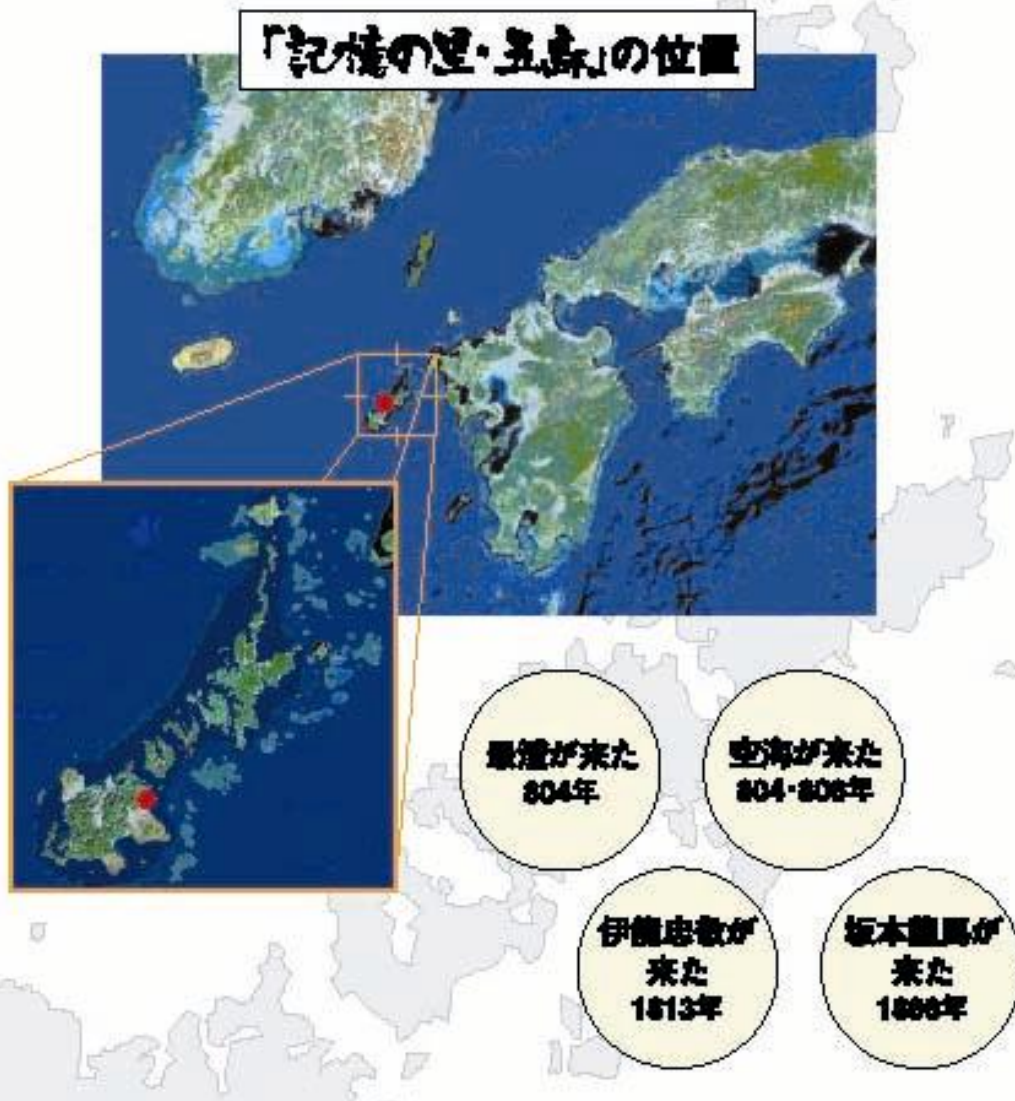


皆さんも五島に来てください。



大丈夫！を合言葉に
世界初！海のあるエコビレッジづくりを進めています…

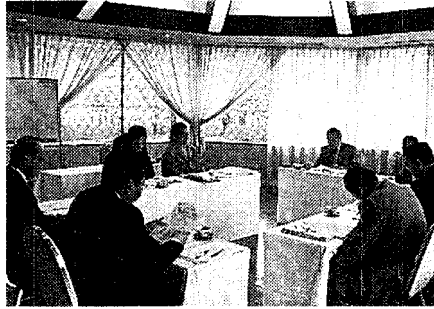
五島列島ファンクラブ

はじめまして、五島列島ファンクラブです！

宜しくお願いします。

五島列島ファンクラブ
長崎で創立総会
五島市で離島の活性化を目指す「企業組合五島列島ファンクラブ（島悟代表）」の創立総会が十三日、長崎市であった。組合員は五人で、事業所は五島市戸岐町の旧戸岐小半泊分校に置く。農的暮らしや環境保全活

動を体験する「田園ミュージアム構想」などを進めた民間組織「新現役の会&農援隊」（瀨口孝代表）が前身。田舎暮らしを志向する人の研修施設として活用する半泊分校の改修工事が完了し、交流人口の拡大や定住促進を本格的に進めようと、県中小企業団体中央会の支援で設立した。企業組合は四人以上が組合員となって資本や労働力



活性化を目指す企業組合五島列島ファンクラブ創立総会
■長崎市、ホテルセントヒル長崎

を持ち寄り、働く場所を創造する制度。最低資本金の制約を受けず、法人格が取得できる。同ファンクラブの事業内容は、五島列島へU、Iターンをする人の生活全般の相談に応じる「五島列島定住促進のためのコンサルティング事業」や、交流人口拡大のためのツアーなど。島代表は「五島を元気にしていきたい」と話した。

長崎新聞 2009年1月14日より

設立趣意書

1. 設立の目的 別紙の通り

2. 組織及び事業の概要

(1) 事業所の所在地 長崎県五島市とき1180番地 半泊分校内

(2) 事業計画の概要

- 1 五島列島活性化のためにする調査研究・情報収集・提供事業
- 2 五島列島PRのための出版物の企画制作・発行
- 3 五島列島振興のためのセミナー・研修会の企画及び開催
- 4 五島列島定住促進のためのコンサルティング事業
- 5 五島列島交流人口拡大のためのツアー企画・情報提供事業
- 6 五島列島の特産品の通信販売事業
- 7 通信教育事業
- 8 その他付帯する事業

3. 理事会構成メンバー(主な略歴)

代表理事	島	悟 (シンクながさき客員研究員、元五島市企画課長)
専務理事	藤澤	雄一郎 (長崎総合科学大学教授、中小企業診断士)
常務理事	瀨口	孝 (東京→五島市移住者、新現役の会&農援隊代表)
理事	瀨口	よしの (福岡→五島市帰郷者、ここ長崎店主)
理事	真崎	一郎 (株真崎商店代表取締役、環境技術研究)
顧問	石井	計行 (医業経営コンサル・税理士・中小企業診断士)

設 立 の 目 的

五島列島ファンと共に、限界集落を大丈夫村！にしていきたいと思います！！

少子高齢化が及ぼす社会的影響の中で、私たちが最も問題視していることは「第一次産業の担い手不足による環境破壊」です。

百姓仕事は自然をつくるという言葉の通り、農家は単なる食料供給者であるにとどまらず、「里山の風景」「緑の景観」「美しい水辺」など都会の人々にとってはオアシスとも云える空間をも創造する主体者でもありました。

一度人の手の入ったところ(森、田、畑)には人手を入れ続けていかなければなりません。

私たちは、年齢の壁を超えた「生涯現役の姿」を敬い、人口の規模ではなく「暮らしの質を大切にする里山の暮らし」を尊び、「安心・安全、そして大丈夫村！づくり」をコンセプトとする**田園ミュージアム構想**を2006年夏より提唱してまいりました。

この度、五島市・長崎県・農水省と連携して取組んできました半泊分校（福江島・奥浦地域の廃校）の再生整備に目途がついたことから、**企業組合「五島列島ファンクラブ」**を設立し、全国に潜在する五島列島ファンの方々に呼びかけ、魅力あふれる環境貢献事業の数々を始めます。

五島列島には「限界集落（65歳以上の人口比率50%以上の村）」がたくさんあります。

その一方、縄文の遺跡、遣唐使の最終停泊地（空海も最澄も来島）、隠れキリシタンの集落（その数50を超え、その文化性が世界遺産暫定リスト入り）などの歴史資本に加え、海の幸・山の幸の豊かな食材の宝庫たる自然資本や社会資本（集落地帯に光ファイバー網敷設！）という「宝島性」も一杯です。

限界集落を大丈夫村に **Change!**・・・記憶の里・五島プロジェクト

映画「七人の侍」に登場する村人たちの如く、休耕地増大（山賊）や磯やけ現象（海賊）から五島列島の「宝島性」を守り抜くための闘いを、島内外に潜在する侍（五島列島ファン）の皆様と共に始めます。

自主・独立を目指す平成の百姓達よ！、

さあ 出でて集い、協働の喜びを共有し合おう！

企業組合 五島列島ファンクラブ 発起人一同

*大辞林（三省堂刊）「百姓」・・・ひやくせい または ひやくじょう。「近年、歴史学者の網野善彦は中世社会、近世社会における百姓身分に属する者たちが農民、山民、漁民、職人、などの広範な生業の従事者であったこと」を明らかにした。

五島手延べうどんをお届けいたします。・・・東京・巢鴨商店街「ここ・長崎」より・・・



濱口：どうぞ食べてみてください。五島列島名物の飛魚（あご）だしうどんです。

矢部：頂きます。あ、おいしい！出汁のきいた、さっぱりとしたいいお味ですね。お店はいつ始められたのですか。

濱口：2007年の9月です。この店は五島列島の宣伝拠点を兼ねているんです。五島が日本各地の田舎のように少子高齢化の波で人が誰もいなくなり、“無人島”になってしまったら大変なことだし、悲しいし、もったいないことになると思って、島興し役を買って出ました。

矢部：東京広しとは言え、なぜ、下町の巣鴨商店街に拠点を定めたのですか？

濱口：巣鴨商店街に開店したのはメディアの露出度の高さを狙って…。実際、昨年12月8日の「ぶらり途中下車の旅」で放映されました。

矢部：すご～い。開店3ヵ月でTVデビューですね！

濱口：飛魚だし五島うどんの宣伝においては幸先の良いスタートでしたが、「五島列島の魅力」や「島の人と都会の人との関係性」については、もっともっとメッセージを発信していこうと考えています。

矢部：私も北海道の出身で、島のことには興味があります。

濱口：日本の島持ち県は1位が長崎、2位鹿児島、3位北海道です。美穂さんも島持ち第3位の出身者として、島振興の同志でもありますね。

矢部：あらら、私も応援隊員になっちゃった（笑）。

離島再生への熱き想いをお届けいたします。・・・「大丈夫村！からの贈り物」計画・・・



矢部： 店内には、島の特産品も所狭しと並んでいますね。

濱口： 「地域再生ミュージアム」がこの店のコンセプトなので、五島うどん、飛魚、塩、椿油という4大地域資源に力を入れて、情報発信しています。

矢部： 五島の博物館ってということですね。どんなお客様が来られますか？

濱口： 「看板にある『三大うどん』って何??」・・・ということで好奇心の強いお客様も来られますが、やはり、九州ゆかり、長崎ゆかり、五島列島ゆかりの方々が多く立ち寄ってくださいます。そしてうどんを食べると、皆さん、「この味懐かしいな」「俺も飛魚だしで育ったんだよな」と懐かしがって喜んで頂けます。

矢部： こちらの店は6坪程でしょうか、規模から見ても、気軽に、そして自然にお話が聞けそうですね。

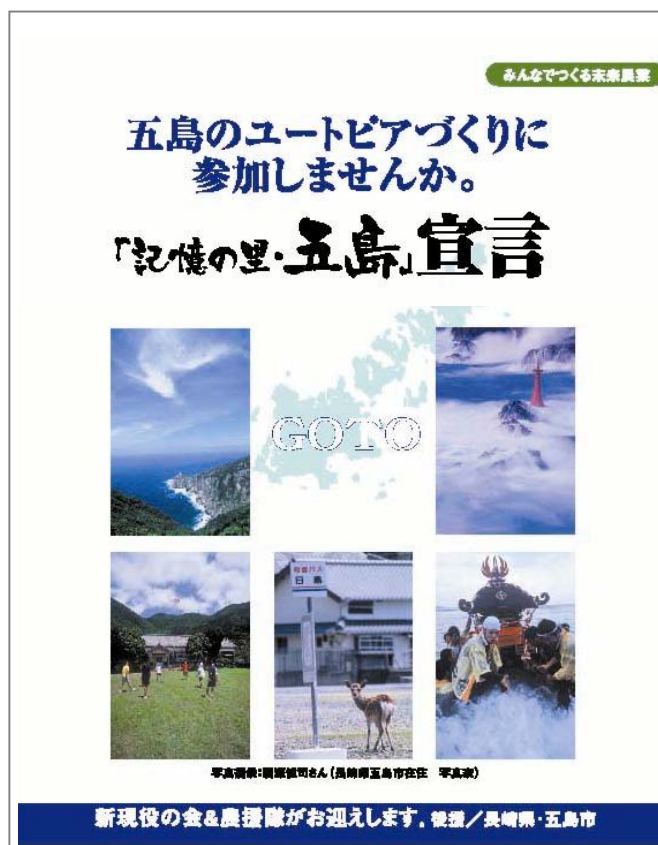
濱口： はい。10人で満杯になるほどの小さな店ですが、1日に50～60人ほどのお客様が来られますので、年間1500～1800人のお客様にPRできます。その人の輪が繋がれば大きな力に育つはず。島の振興には、このような都市部の人たちとの繋がりが絶対に、必要不可欠です。

矢部： 五島列島応援隊の拠点としてこの店が存在することが分かってきました！

濱口： 少子高齢化の波は日本全国に押し寄せ、だれもが「自分の故郷を失っていく時代」が到来しています。島はその先行モデル。五島列島に起きていることは全国どこの田舎でも起こりうること。しかも、島から人がいなくなることは、有人島が無人島になるということなので、経済上も、外交上・防衛上の諸問題も浮上してきます。これは日本国民として看過できない「危機」だと思いませんか？

矢部： 限界集落問題は、日本第3位の島持ち県人、北海道人としても、他人事ではありませんね。

五島列島の魅力をお伝えいたします。・・・「記憶の里・五島プロジェクト」・・・



矢部： 五島列島の魅力、私にもぜひ教えてください。

濱口： まず自然が素晴らしい。開発が遅れたぶん、五島には我々日本人の心の原風景がたくさん残っているんです。五島列島って、日本人の「記憶の里！」だと私は感じているんです。

矢部： 「記憶の里」ですか？魅力的な言葉ですね。他にはどんな魅力が・・・？

濱口： 自然の次は歴史資本。五島列島のことは古事記や蜻蛉日記にも載っています。驚きでしょう。西暦 700～800 年頃は遣唐使の渡航拠点でもあったので、あの最澄も空海も立ち寄っています。その頃、今の東京にはお江戸日本橋も、お城もなくただの森だったんですから、凄いでしょ。幕末には、伊能忠敬も重要な国土として測量に来ましたし、明治の志士坂本竜馬も上五島の地を訪れています。

矢部： 五島列島、恐るべしですね。そんな錚々たる有名人が来ていたなんて・・・。

濱口： それだけではありません。五島では旧石器時代から縄文・弥生時代の遺跡があちこちに見つかります。研究によれば約 2 万年前頃から人々が山や海で狩猟や漁をして暮らしていたらしい。五島には古代から一次産業の技術が連綿と受け継がれているんです。言わば、「農的暮らしの技術資本」が一杯の島なのです。

矢部： まさに、「記憶の里」ですね。私も、ぜひ五島列島に行ってみたいです。

都会の人との繋がりを求めています！・・・「田園ミュージアム構想」・・・



濱口：「都市と地方の問題はコンクリートジャングルと田園地帯、あるいはストレスとその解消策の問題である！」とも言えます。自分の故郷がどこであろうと、少子高齢化による田園風景消滅！の危機から免れない。都会に暮らす人々にとっての田園風景の消失は計り知れないほどの価値ある宝物の消失ではないでしょうか？都会の人ほど「田園風景の維持活動」に積極的になってもらいたいです。

矢部：地域興しは地方だけではなく都市住民と共に推進する必要があるということですね。確かに1人ではできないし、自然や景観を守るには多くの人の手助けや長い時間がかかりますものね。

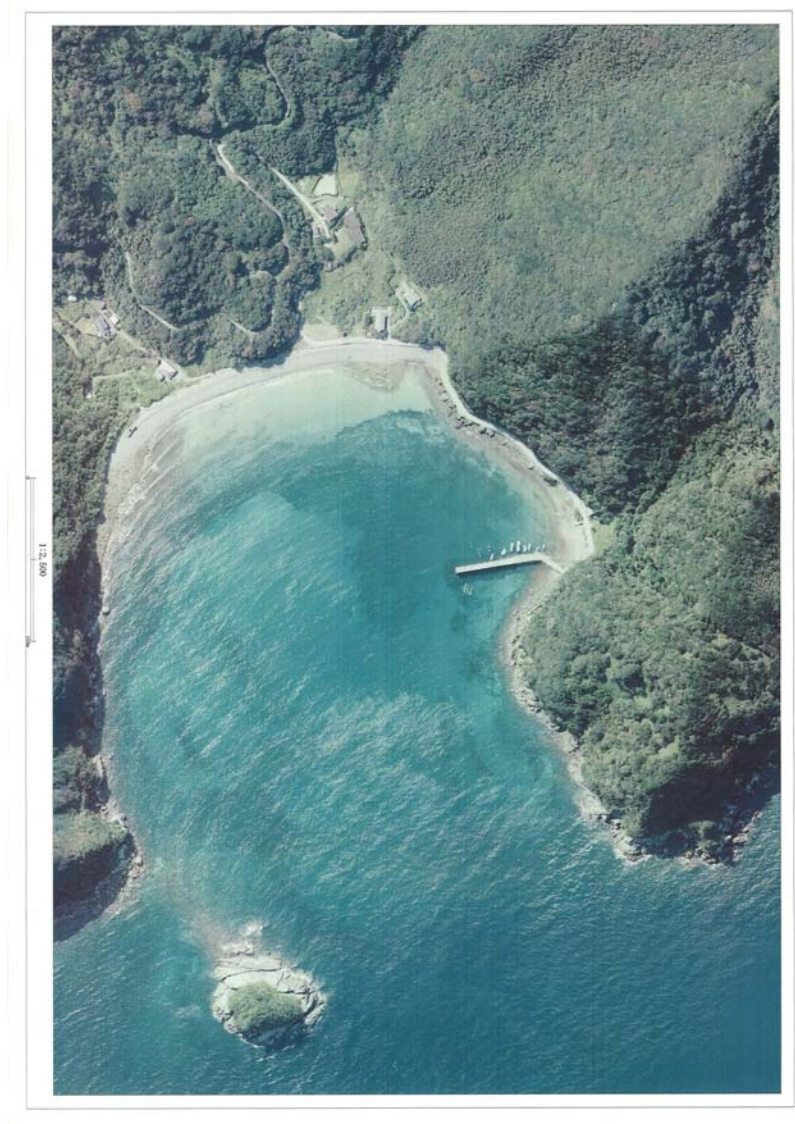
濱口：そう！ふるさと創生も大切だけど、「人づくり」や「人との繋がり」そして「人との協働作業」が必要不可欠なんですよね。ビジョンや思想を人から人へ伝えて、人的資本を蓄えておくことが地域再生の鍵です。既に島根県の隠岐諸島では、政策のポイントを人材づくりにおいて島の活性化に成功しています。五島にもできないはずがない。

矢部：今、具体的な動きはありますか？

濱口：国や県や市と協働して五島市戸岐町の廃校（半泊分校）を再生し、Uターン・Iターン希望者支援相談や環境ボランティア養成セミナーなどの地域再生プロジェクト（田園ミュージアム構想）を始めています。「地域資源の発見・活用・展開の仕方」や「自然・農漁業・歴史の味わい方」など、経済的にも文化的にも田舎暮らしを深く味わうことができる「エコ・ステイ事業」も開始します。五島への移住を希望される方はもちろん、他の各地での地域再生を志す方にも大いに役立ちますよ。詳しくは、どうぞ**五島列島ファンクラブ（0959-73-0480）**までお問合せください。

矢部：うまい（笑）！ご主人の思い、確実に実現に近付いていますね！

ようこそ、世界初！ 海のあるエコビレッジ 半泊村へ



私たちが おもてなし いたします！

エコステイ担当
はまぐち たかし

大丈夫かな～？



大丈夫村！からの
贈り物担当

はまぐち よしの

〒853-0054 長崎県五島市戸岐町1180番地 半泊分校内
五島列島ファンクラブ TEL/FAX 0959-73-0480

sakura_futaro@yahoo.co.jp